

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 42 号:2016 年 6 月－8 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

7月15日に政府閣僚会議が開催され、2016年上半期のウズベキスタンの社会・経済発展状況について審議

公式データによると、GDP成長率は7.8%であった。鉱工業生産は6.7%、農業生産は6.8%、サービス業は12.9%の伸びを示した。建設業の伸びは17.5%であった。国の財政収支は対GDP比0.1%、すなわち607億スムの黒字であった。物価上昇率は予測値を上回らなかった。

融資総額は前年同期比26.2%の伸びを示した。銀行融資の約80%は投資のために供与された長期融資であった。

投資総額の伸びは11.8%で、そのうち外国投融資は17.2%の伸びを示した。43の製造施設（総額19億ドル）が稼働を開始し、72件の新規投資プロジェクト（総額34億ドル以上）の実施が開始された。

投資・金融セクター

ウズエルテフサノアトは自社発展計画に基づき2030年までに10億ドルの投資を行う予定

株式会社ウズエルテフサノアトは、電気工業分野の国内最大手企業を傘下に収めている。22種類の新製品の生産を開始し、各企業における生産を5.1倍に拡大する計画である。同社傘下の各企業は、すでに過去5年間で、従来輸入されていた25種類以上の家電製品の生産を開始した。その結果、国内家電市場における国産品のシェアは40～45%に達した。2015年の同社の生産高は1兆3,000億スム、輸出高は1億6,770万ドル（72%増）であった。

ウズヒムプロムは2020年までに総額26億5,000万ドル相当のプロジェクトを実施する予定

株式会社ウズヒムプロムでは、ポリ塩化ビニル（PVC）、自動車・農機タイヤ、コンベアベルト、カーボンブラック、硫酸カリウム、合成洗剤、水酸化カリウムなどの製品の生産を含む合計23件のプロジェクトの実施を予定している。生産高は2020年までに2016年の2倍の約18億ドルとなる計画である。

最大の化学企業である株式会社ナヴォイアゾットにおいて、現在、総額18億ドル相当の大規模投資プロジェクト3件の検討作業が行われている。具体的には、中国企業CAMCE EngineeringとHQC Shanghaiから成るコンソーシアムとともにPVC、苛性ソーダ、メタノールの製造プロジェクトが実施されている。また、日本の三菱商事と三菱重工業から成るコンソーシアムとの協力により、古い製造施設に代わる新たなアンモニア・尿素製造プラントの建設プロジェクトが進められている。

アジア開発銀行(ADB)がウズベキスタンの中小企業発展のため1億ドルを供与

この資金は、国内金融機関4社、すなわち民間株式商業銀行Davr-Bank、株式商業銀行Hamkorbank、株式イノベーション商業銀行イパク・ユリ、リース会社Uzbek Leasing International A.O.を通じて供与される予定である。

また、ウズベキスタン政府は、カシカダリヤ州のタリマルジャン火力発電所の拡充・近代化の第2フェーズを実施するため、ADBと4億5,000万ドルの融資について協議を行っている。このプロジェクトでは、2020年までに出力各450MWのガスタービン発電機2基を建設する計画である。事業費予定額は9億ドルである。2016年末までに事前F/Sを完了する見込みで、ADBは2017年初めに融資の申請内容について検討する予定である。

ウズベキスタンで初の商品・サービス多通貨決済システムが発足

このシステムは、ウズベキスタン中央銀行と中国の銀聯(UnionPay)決済システムの協力により創設された。この新システムにより、国際銀聯クレジットカードを所持する外国人は、Uzcardシステムに接続された通常の端末によりウズベキスタン国内で商品やサービスの決済をすることができる。また、ウズベキスタン国民は国内の商業銀行で銀聯クレジットカードを作り、外国での商品やサービスの決済に利用することができるようになる。

エネルギーセクター

7月、ウズベキスタンと中国が新たなガス契約に関する協議を開始

協議は初期段階にあるため、数年間の長期契約になるか、もしくは2017年のみの契約になるのか、現時点ではわからない。契約の有効期間は、双方が相互に受け入れ可能なガス価格算定方式について合意できるか否かによって決まる。

ウズベクエネルギーが再生可能エネルギー分野のプロジェクトを拡大する意向

株式会社ウズベクエネルギーは、2015年からナマンガン州パプ地区において出力130kWの太陽光発電所を導入するパイロットプロジェクトを実施している。この発電

所はすでに稼働を開始している。この発電所は、ウズベキスタン経済省と韓国産業通商資源部の間で調印された覚書に基づき、韓国の70万ドルの資金協力により韓国の技術で建設された。

今後、ウズベクエネルギーは、サマルカンド州、ナマンガン州、スルハンダリヤ州において出力100MWの太陽光発電所の建設を計画している。さらに、ナヴォイ州では風力発電施設の導入プロジェクトも実施されている。

自動車・機械工業セクター

7月、ウズベキスタンとカザフスタンの企業関係者が協力関係および自動車部品・新型車共同生産開始の可能性に関する協議を開催

今回ウズベキスタンを訪問したのは、カザフスタンの大手自動車メーカーの1社で、トヨタ、Hyundai、SsangYong、Geely、JACの幅広いラインナップの自動車やIvecoの特殊車両を製造しているサルリアルカアフトプロムの代表団である。カザフスタン側の発表によると、サルリアルカアフトプロムは、自動車部品やスペアパーツを製造する合弁企業の設立ならびに両国市場および将来的には他の国々で今後ニーズが高まるであろう自動車モデルの共同生産の可能性に関心を示している。協議の結果に関する公式発表は出されていない。

GMウズベキスタンは事業を継続、NexiaとSparkのリニューアルモデルの生産と輸出を開始

2016年上半期、GMウズベキスタンの一部の幹部による横領の捜査が行われたことから、同社工場の操業停止に関する噂が広がった。ウズベキスタンおよびロシアに駐在する同社の担当者はこうした噂を何度も否定してきた。

なお、2016年上半期のロシアにおけるGMウズベキスタン製自動車の販売台数は8,574台で、前年同期（1万357台）に比べて17%減少した。2016年同期のロシアにおける自動車販売台数は、前年同期比14%減の67万2,100台であった。

2016年7～8月までに問題は解決され、同社はウズベキスタン国内市場および輸出向けにリニューアルされた各モデルの出荷を開始した。たとえば、7月25日にはRavon R2（Spark）が初めてカザフスタン向けに出荷された。8月8日には、GMウズベキスタンの国内販売代理店における新型モデルNexia R3の販売が開始された。また、8月3日にはRavon R2、8月11日にはNexia R3のロシア向けの出荷が開始された。

同社は、CIS諸国におけるRavon販売代理店網拡大の一環として、8月11日にウクライナでこの新ブランドのプレゼンテーションを開催した。ウクライナで発表されたRavonブランドのラインナップは、Matiz、R2（Spark）とGentraであった。年末までに、R4（Cobalt）モデルも加わる予定である。

GMウズベキスタンとRavonブランドは、8月末に開催されたモスクワ国際モーターショー（MIAS 2016）にも出展した。秋にはアゼルバイジャン、ベラルーシおよびトルクメニスタンでRavonブランドのプレゼンテーションを行う予定である。

同社のアサカ工場では、8月8日に開始された年次定期点検を終え、9月に操業を再開した。

輸送セクター

6月、電化を完了したアングレン～パプ間鉄道が運行を開始

この区間は19.2kmのユニークなトンネルを含めて全長123.1kmで、フェルガナ盆地と国内の他の地域を直通の鉄道により結んでいる。タシケントで上海協力機構総会に出席した中国の習近平国家主席のウズベキスタン訪問中に、この区間の運行が正式に開始された。

7月11日には、ウズベキスタン・テミル・ヨラリ（ウズベキスタン鉄道）の貨物列車の運行が開始された。様々な貨物を積んだ1日10本以上の列車がこの区間を運行しており、同社の計画によると、列車の本数は1日20本に増加する見込みである。新区間を通して輸送されているのは、主に、石油、石油製品、化学・鉱物肥料、石英砂（フェルガナの企業クヴァサイクヴァルトツ向け）、果実・野菜製品などである。また、9月5日には旅客列車がこの区間の定期運行を開始した。

8月末にはカザフスタンとウズベキスタンを経由する中国～アフガニスタン区間の運行が開始され、最初の列車が中国東部の江蘇省南通市を出発した。毎月90本以上の貨物コンテナが輸送される見込みである。区間全体の所要時間は約15日である。

その他のセクター

7月、タシケントで初の国際果実・野菜見本市を開催

この見本市では、ウズベキスタン国内の全地域から170社以上の企業が果実・野菜製品を出品した。米国、英国、アラブ首長国連邦、韓国、日本、イタリア、フランス、マレーシア、インド、ロシア、ラトビア、アゼルバイジャン、トルクメニスタン、イラン、アフガニスタン、カザフスタンおよびその他の国々の企業関係者300人以上がこの見本市に参加した。

見本市開催期間中、総額20億ドル以上相当の果実・野菜製品輸出契約270件が結ばれた。ウズベクオズィコフカトホールディングの情報によると、輸出される製品の27%は野菜、25%はブドウ、20%は果物、17.6%は乾燥・加工製品、8.4%は豆、2%はメロンである。